

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【公表番号】特表2008-543314(P2008-543314A)

【公表日】平成20年12月4日(2008.12.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-048

【出願番号】特願2008-517145(P2008-517145)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	7/06	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	7/06	
C 0 7 K	19/00	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 P	35/00	

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月16日(2009.6.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

本質的に、

P 0が、X、X X、又はX X X(式中、Xは、任意のアミノ酸又はアミノ酸不存在を規定する)であり、

P 1が、S、K、F、Y、T、Orn又はHseであり、

P 2が、L、V、M、I、Nva、Nle又はAbuであり、

P 3が、L、Nva、Nle又はAbuであり、

P 4がQであり、

P 5がHであり、

P 6が、L、Nva、Nle又はAbuであり、

P 7がIであり、

P 8が、G、A、S又はSarであり、

P 9におけるPが、L、V、I、A、Nle、Nva、Abu又はL-NH₂であり、

P + 1が、X、X X、又はX X X(式中、Xは任意のアミノ酸又はアミノ酸不存在を規定する)である配列であって、

S L L Q H L I G L (配列番号 7 1) ではない配列からなる、単離ペプチド。

【請求項 2】

本質的に、配列：

{ K、F、Y、T、Orn 若しくは Hse } L L Q H L I G L (配列番号 7 2) ; 又は
S { V、M、I、Nva、Nle 若しくは Abu } L Q H L I G L (配列番号 7 3) ; 又は

S L { Nva、Nle 若しくは Abu } Q H L I G L (配列番号 7 4) ; 又は
S L L Q H { Nva、Nle 若しくは Abu } I G L (配列番号 7 5) ; 又は
S L L Q H L I { A、S、若しくは Sar } L (配列番号 7 6) ; 又は
S L L Q H L I G { V、I、A、Nle、Nva、Abu 若しくは L - NH₂} (配列番号 7 7) ; 又は

{ F、Y、T、Orn 若しくは Hse } { Nva、Nle、M 若しくは I } L Q H L I G L (配列番号 7 8) ; 又は
S { Nva、Nle 若しくは M } L Q H L I G { Nva、Nle 若しくは V } (配列番号 7 9) ; 又は

{ K、F、Y、T、Orn 若しくは Hse } L L Q H L I G V (配列番号 8 0) ; 又は
{ F 若しくは T } L L Q H L I G { Nle } (配列番号 8 1) ; 又は
{ F 若しくは T } { Nva 若しくは M } L Q H L I G { Nle } (配列番号 8 2)

から成る、請求項 1 に記載の単離ペプチド。

【請求項 3】

本質的に配列：

{ F、Y、T、Orn 若しくは Hse } L L Q H L I G L (配列番号 8 3) ; 又は
S { Nva、Nle 若しくは M } L Q H L I G L (配列番号 8 4) ; 又は
S L L Q H L I G { Nle、Nva 若しくは L - NH₂} (配列番号 8 5) ; 又は
S L L Q H { Nva 若しくは Abu } I G L (配列番号 8 6) ; 又は
S { Nva } L Q H L I G { Nle } (配列番号 8 7) ; 又は
{ F 若しくは T } { L 若しくは Nva } L Q H L I G { Nle } (配列番号 8 8)

から成る、請求項 2 に記載の単離ペプチド。

【請求項 4】

本質的に配列：

S { L 若しくは Nva } L Q H L I G { Nle } (配列番号 8 9) ; 又は
T { Nva } L Q H L I G { Nle } (配列番号 9 0)

から成る、請求項 3 に記載の単離ペプチド。

【請求項 5】

本質的に配列： S { Nva } L Q H L I G { Nle } (配列番号 8 7) から成る、請求項 4 に記載の単離ペプチド。

【請求項 6】

クラス I MHC ペプチド結合クレフトに対する親和性を有する、請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の単離ペプチド。

【請求項 7】

前記クラス I MHC が HLA - A 2 である、請求項 6 に記載の単離ペプチド。

【請求項 8】

クラス I MHC 結合クレフトにおいて S L L Q H L I G L (配列番号 7 1) の親和性に類似するか又はこれよりも大きい該クラス I MHC 結合クレフトに対する親和性を有する、配列 S L L Q H L I G L (配列番号 7 1) において、1 ~ 3 つの置換を含む単離ペプチド。

【請求項 9】

解離の半減期が、前記クラス I MHC 結合クレフトからの S L L Q H L I G L (配列番号 7 1) の解離の半減期に類似するか又はこれよりも長い、請求項 8 に記載の単離ペプチド。

【請求項 10】

ペプチド S L L Q H L I G L (配列番号 71) に対する特異性を有する T 細胞によって認識される、請求項 8 に記載の単離ペプチド。

【請求項 11】

ペプチドが、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載のペプチド配列を有する、クラス I MHC / ペプチド複合体。

【請求項 12】

クラス I MHC / PRAME₄₂₅₋₄₃₃複合体を認識する TCR と交差反応する、請求項 1 に記載のクラス I MHC / ペプチド複合体。

【請求項 13】

クラス I MHC / 複合体が、HLA-A2 / PRAME₄₂₅₋₄₃₃複合体である、請求項 1 2 に記載のクラス I MHC / ペプチド複合体。

【請求項 14】

遊離配列に組み込まれた請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載のペプチド配列を含む、ポリペプチド。

【請求項 15】

請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載のペプチドを含む、免疫原性組成物。

【請求項 16】

請求項 1 4 に記載のポリペプチドを含む、免疫原性組成物。

【請求項 17】

請求項 1 4 に記載のポリペプチドをコードする、核酸。

【請求項 18】

請求項 1 に記載のペプチドを発現する、核酸手段。

【請求項 19】

請求項 1 7 又は 1 8 に記載の核酸を含む、免疫原性組成物。

【請求項 20】

請求項 1 5 に記載の組成物を節内投与することを含む、CTL 応答を誘起、維持又は増幅させる方法。

【請求項 21】

請求項 1 5 に記載の組成物及び免疫賦活剤を節内投与することを含む、クラス I MHC 拘束性 T 細胞応答を同調させる方法。

【請求項 22】

請求項 1 9 に記載の組成物を節内投与することを含む、CTL 応答を誘起、維持又は同調させる方法。

【請求項 23】

本質的に、

P0 が、X、XX、又はXXX (式中、X は任意のアミノ酸又はアミノ酸不存在を規定する) であり、

P1 が、G、A、S、Abu 又は Sar であり、

P2 が、L、M、I、Q、V、Nva、Nle 又はAbu であり、

P3 が P 又は W であり、

P4 が S であり、

P5 が I であり、

P6 が P であり、

P7 が V であり、

P8 が H であり、

P9 が、P、A、L、S 又は T であり、

P10 における P が、I、L、V、Nva 又は Nle であり、

P + 1 が、X、XX、又はXXX (式中、X は、任意のアミノ酸又はアミノ酸不存在である) である配列であって、

G L P S I P V H P I (配列番号 4 2) ではない配列から成る、単離ペプチド。

【請求項 2 4】

ペプチドが、請求項 2 3 に記載のペプチド配列を有する、クラス I M H C / ペプチド複合体。

【請求項 2 5】

遊離配列に組み込まれる請求項 2 3 に記載のペプチド配列を含む、ポリペプチド。

【請求項 2 6】

請求項 2 3 に記載のペプチドを含む、免疫原性組成物。

【請求項 2 7】

本質的に、配列：

E { A、L、Nva、Nle } AGIGILT { V、Nva、Nle } (配列番号 9 1)
; 又は

Y { M、V、Nva、Nle } DGTMSQ { V、Nva、Nle } (配列番号 9 2) ;
から成る、pSEMプラスミドによって発現される免疫原性ペプチドの単離ペプチド類似体であって、

前記配列が、E { A、L } AGIGILTV (配列番号 9 3) 又は YM D G T M S Q V (配列番号 9 4) ではない、単離ペプチド類似体。

【請求項 2 8】

クラス I M H C 結合クレフトに対する E A A G I G I L T V (配列番号 1 0 0) の親和性に類似するか又はこれよりも大きい前記クラス I M H C 結合クレフトに対する親和性を有する、配列 E A A G I G I L T V (配列番号 1 0 0) において 1 ~ 3 つの置換を含む単離ペプチド類似体。

【請求項 2 9】

クラス I M H C 結合クレフトに対する YM D G T M S Q V (配列番号 9 4) の親和性に類似するか又はこれよりも大きい前記クラス I M H C 結合クレフトに対する親和性を有する、YM D G T M S Q V (配列番号 9 4) において、1 ~ 3 つの置換を含む単離ペプチド類似体。

【請求項 3 0】

ペプチドが、請求項 1 に記載のペプチド配列を有する、クラス I M H C / ペプチド複合体。

【請求項 3 1】

遊離配列に組み込まれた請求項 2 7 に記載のペプチド配列を含む、ポリペプチド。

【請求項 3 2】

請求項 2 7 に記載のペプチドのいずれかを含む、免疫原性組成物。

【請求項 3 3】

請求項 3 1 に記載のポリペプチドを含む、免疫原性組成物。

【請求項 3 4】

請求項 3 1 に記載のポリペプチドをコードする、核酸。

【請求項 3 5】

請求項 3 4 に記載の核酸を含む、免疫原性組成物。

【請求項 3 6】

請求項 3 2 に記載の組成物の節内投与を含む、C T L 応答を誘起、維持又は増幅させる方法。

【請求項 3 7】

請求項 3 2 に記載の組成物及び免疫賦活剤の節内投与を含む、クラス I M H C 拘束性 T 細胞応答を同調させる方法。

【請求項 3 8】

請求項 3 5 に記載の組成物の節内投与を含む、C T L 応答を誘起、維持又は同調させる方法。